

# 隨泉寺寺報

平成 23 年 (2011 年) 6 月号 第 490 号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

前期門信徒講座

講師 真宗寺副住職 小川智行師

講題 『出遇い』

## ■因幡の源左 ～青谷の願正寺～

昭和のはじめに因幡の源左という念仏者がおりました。因幡とは、現在の鳥取県にあたります。連日の雨に村人達は、空を恨めしそうにながめていました。「なんといういまましい雨だ」「これじゃあ畑仕事もできん」村人達は、口々に愚痴をいいます。そこへ傘もつけずにずぶ 濡れになった源左さんが にかかりました。この雨にさぞかし困った顔をしているかと思いきや、なんだかうれしそうです。不審に思ってたずねてみると、「この雨ではじめて気づいたがや、鼻が下向いててよかったでなあ」と、答えたそうです。もし鼻が上むいていたら、雨が鼻に入ってたいへんです。いわれてみれば、あたりまえのこととして気にもとめない事柄も、あらためて見直してみると新たな発見につながります。私たちの生活は、目を外にばかりむけて不満だらけの毎日です。今、在ることのすばらしさを忘れてしまっているような気がします。このたび京都にお参りする道すがら、青谷の願正寺にお参りして源左さんのお話を聞きました。



## 6 月の法座予定

- 6 月 1 2 日 …… 掃除 平原東
- 6 月 1 4 日 昼席午後 1 時より …… 前期門信徒講座
- 6 月 1 4 日 夜席午後 7 時より …… 出張法座 平原東 平原 鍊一氏宅
- 6 月 1 5 日 朝席午前 10 時より …… お父さんの集い おとき
- 6 月 1 5 日 昼席午後 1 時より …… 前期門信徒講座
- 7 月 1 日 午後 1 時より …… 作品づくり
- 7 月 1 日 午後 6 時より …… 門信徒会本部役員会

## ☆ 初参式

浄土真宗の門信徒のご家庭に生まれた赤ちゃんが初めてお寺にお参りする「初参式」は、尊いご縁によって恵まれた新しいのちを阿弥陀如来さまの御前にて、ご家族、また縁ある方々そろってお祝いし、感謝する式です。5 月 16 日隨泉寺の初参式が行われました。今年の日浦 碧月 (ひうら みずき) くん、片山 航汰 (かたやま こうた) くん、山根 花菜 (やまね はな) さんの 3 人の方の初参式が行われました。元気で育ってくださることを願います。



## ☆親鸞聖人 750 回大遠忌法要

5 月 12 日から 14 日までご本山 (西本願寺) に 36 名でお参りして来ました。幸い 12 日に少し雨が降っただけで天候にも恵まれ、尊いご縁に遇わせていただきました。5 月 12 日 午前 7 時 30 分隨泉寺前を出発、途中荒野橋、宮原橋、瀬野大橋で合流される人を乗せて一路岡山の法然上人誕生寺へ。説明をしてくださったお坊さんの軽妙な説明で腹を抱えて笑いながら、法然上人の生い立ちを聞きました。昼食の精進料理のおいしかったこと、皆さんも満足の様子でした。それから鳥取の青谷の願正寺に源左さんを尋ねました。ご住職の丁寧なお話で源左さんの日ごろの生活の一端を拝聴しました。泊まりは吉永小百合さんのドラマで有名になった夢千代の湯村温泉に泊まりました。二日目は毎月寺報でカインダーの解説で掲載させていただいている東井義雄先生の記念館と、住職をしておられた東光寺をたずねました。兵庫県のずいぶん田舎の地で、生活は

なかなか大変だったろうと当時を忍ばせていただきました。今の東光寺を守っておられる坊守さんにお話をして頂き、とてもよくわかる話で、いつか縁があったら隨泉寺にも御出講してもらいたいと思っています。そのあと京都に入り、嵐山で昼食後、大谷本廟にお参りしました。親鸞聖人のお墓の前の明著堂で焼香させて頂き、感激いたしました。夜は本願寺の聞法会館で泊まりました。

3 日目はいよいよ親鸞聖人 750 回大遠忌法要にあわせていただきました。書院や飛雲閣、伝道院なども見学いたしました。3400 人という人がお参りになっていて、法要は感動的でした。住職と次女の称子は出勤いたしました。本願寺では 50 年毎の節目にあたる、親鸞聖人の年忌法要を「大遠忌」と称して、特に大切にお勤めいたしております。

私たち一人ひとりが共々に、聖人のご苦勞をしのび、お徳を讃えるとともに、浄土真宗のみ教えを深く味わうことのできる新たな機縁といたしましょう。

## ☆お父さんの集い

6 月の第 3 日曜日はお父さんの日です。お寺に参りたいと思っても、なかなか気恥ずかしくてお参りができないお父さん。胸を張ってお参りください。チャンスです。お昼にはビールも出します。ビールにつられてお参りください。

6月

## 傲慢さと愚かさから 逃れられない私

毎日の勤行は、親鸞聖人お作の『正信偈』と、六首の和讃を読み、その後で、蓮如上人の『御文章』を読むことになっていました。『御文章』を読んでいまして、いたるところで、反発ばかりを感じていました。例えば『御文章』の五帖目に、「それ、五劫思惟の本願といふも、兆載永劫の修行といふも、ただわれら一切衆生をあながちにたすけたまはんがための方便に……」ということばで始まる文章があるわけですが、「五劫思惟」ということばに、反発を感じてしまいます。



「一劫」というのは、四十里立方の城に充たした芥子粒を、三年に一粒ずつとり出して、全部なくなってしまう時間の長さを表すことばだそうです。また、四十里立方の大きな石の上に、三年に一度ずつ天人が降りてきて、その軽い羽衣で石をなでると、石が、目に見えないくらいすりへります。そして、その石がすりへり、摩滅してなくなってしまうまでの長い時間を「一劫」というのだ

そうです。

その「一劫」の五倍の長さを「五劫」というわけです。

阿弥陀様の前身であられる「法蔵菩薩様」は、私を救うために、どうしても救う手だてを見つけることがおできにならず、「五劫」という長い間、ご思案なされた、というのですが、私にしてみれば、「そんなデタラメがあつてたまるか、どこにそんな証拠があるか」と、思わないわけにはいきません。「そんな、おとぎ話のようなことを、誰が信じてやるものか」と、考えてしまうわけです。

そんな思いを、当時、私は日記に、「五劫思惟の本願といふも、兆載永劫の修行といふも……しみじみと、偽坊主の罪深し」と書いています。

もう、三十年あまりも昔のことになりますが、若い共産党員の方々と、「宗教」について語り合ったことがあります。そのときも、若い皆さんから、『五劫思惟』などと、証拠もないことを、ありがたそうにいうから、反発を感じてしまうのだ」と、強い主張がありました。そのときにも申し上げたのですが、「私自身も、長い間、皆さんと全くおなじ思いで反発していました。

ところが、その『五劫思惟』の証拠があつたのです。しかも、思つてもみなかった近いところにあつたのです。近すぎて、見えなかったのです。ごまかしようのない、はっきりした証拠があつたのです。『私自身』が、その証拠人だったので。

私は、私自身のなま るいだらしな生きざまを、何とかすることができなければ、教員として、学校の子どもたちに、『もっと、自分のただ一度の人生を大切にしろ』などと、偉そうにいう資格はない、ということに気づき、自分を改造するために、ずいぶん努力しました。ところが、だらしのない、整頓のできないくせひとつ、自



分で改造することができないのです。何べん一大決心をして取り組んでみても、自分で自分をどうすることもできないのです。そういう、どうにもならないしぶとさをもった『自分』というものが、見えはじめたところから、阿弥陀様の前身でありになる法蔵菩薩様の『五劫思惟』の証拠人が、このどうしようもない『私自身』であつたことが、見えはじめたということなのです」と、申し上げたことでした。

水を汲み上げることのできない竹籠で、何年も、何年も、水を汲み上げようとして、あせっていた、愚かな私であつたのです。結局、わがはからいを頼みにする「傲慢さ」と「愚かさ」から逃れられない私であるということでしょう。

## ☆「長い間 私を大切にしてくれた夫を感謝の気持ちを込めて」

縁あって二人が出会つたのはもう 40 年以上前。

いつも温かく包んでもらつた幸せな日々……。

それが今年の桜とともに、あつという間に逝つてしまい、悲しみと寂しさで涙が溢れます。会社を経営していた夫と、経理をして共に働き汗を流した日々が、忙しくも充実した良い時であつたと懐かしく思い出されます。引退してからは、町内の方々とカラオケを楽しんだり、年に2回の温泉旅行をしたり、たくさんの皆さまとそして夫婦二人の穏やかな日々を過ごしておりました。「よいご主人ね」と言っていたような、人当りのよい穏やかでやさしい人柄の夫でした。それは家庭の中でも変わらず、共に過ごした日々を振り返りながら夫への感謝の気持ちは増すばかりです。

ここ1,2年は家で療養の日々でしたが、夫を慕つてくれた友人の支えてもらい、見守られた夫はどんなに幸せだつたことでしょうか。これは本当に悲しいものですが、病から解放された夫が、かの地で安らかに過ごしてくれるよう、これまでの感謝の気持ちを込めて見送ります。

木蓮の花びら開く平成23年4月17日、夫 安楽史郎は86歳の生涯を終え、安らかな旅路につきました。生前お力添え賜りました皆様へ家族一同感謝申し上げます。

平成23年4月19日 安楽京子

法名 釋順史 俗名 安楽史郎 平成23年4月17日往生 行年86歳

## ☆東北・関東大震災 安芸北組23ヶ寺被災地救援活動

東北・関東大震災の支援を安芸北組全体で行うこととなりました。未曾有の大災害でこれから復興までは長い道のりになることでしょう。出来るだけのことを息長くしていこうと思っています。気仙沼市の大島がなかなか救援物資が届かないと聞きました。今回はTシャツや夏物のサンダルがほしいとのことですので、早速調達して送りました。これから希望のもの、季節にあつたものを送りたいと思います。またご協力よろしくお願い致します。

